談
話
室日本生物物理学会第56回年会報告
若手奨励賞および若手招待講演賞

—第14回選考過程報告—

高田彰二¹, 豊島陽子², 石島秋彦³¹平成29・30年度理事 男女共同参画・若手支援委員担当副会長 / 京都大学²平成29・30年度理事 男女共同参画・若手支援委員 / 東京大学³平成29・30年度理事 / 大阪大学

第14回目を迎え、年会の一大イベントとして定着した若手奨励賞の2018年の選考過程・結果について会員の皆様にご報告いたします。

この表彰は、「本会の年会において優秀な一般発表をした若手会員に対し「若手奨励賞」あるいは「若手招待講演賞」を授与し、生物物理学の発展に貢献する人材として、その将来への期待を表明すること」を目的に、本学会における初めての賞として2005年に設立されました。その後10年以上にわたり、本賞では大変高いレベルにおける選考がなされてきました。本賞の受賞者や若手招待講演の経験者の多くが、現在、本学会で活躍されており、本賞は大きく成功をおさめてきたと言えるでしょう。さらに、2016年度「若手招待講演賞」を新設し、若手奨励賞には選ばれなかったものの、若手招待講演シンポジウムにおける優秀な発表を行った研究者を表彰することとしました。これにより、より多くの若手研究者を表彰することができるようになりました。

2018年岡山年会の若手奨励賞および若手招待講演賞の募集に対して、33名（前回は39名、前々回は42名）の応募がありました。このうち、外国人会員が7名（前回7名）、学生会員は8名（7名）、女性は4名（4名）でした。応募者総数は、残念ながらやや減少傾向かと思えます。2015年度に募集要項の英語化を行って以降、外国人の応募者割合は増加しており今回は約21%に達しました。研究分野としては、蛋白質の構造と機能が13名と最も多く、他はイメージング・計測、分子モーター、および生命情報科学が4～5名で続きます。残りは広い分野に分かれていました。

上記の33名の応募者の書類審査を、10人の一次選考審査員の方々に依頼しました。応募者1人あたり4人の審査員が審査を行う分担で、審査員ごとに10～

9点（10%）、8～7点（20%）、6～5点（40%）、4～3点（20%）、2～1点（10%）の配点分布で、平均が5～6点となるように採点をお願いしました。この結果を集計することで、まず上位7名を招待講演者として決定しました。さらに、8位以下の7名の候補者から分野のバランス等を考慮して審査員による投票を行いました。この投票に基づいて残り3名の候補者を招待講演者として選出しました。

ここで発生した利益相反に関することに触れておきます。選ばれた招待講演者10名の中に、選考委員長・高田と副選考委員長・豊島と利益相反のある講演者が各1名含まれていました。豊島は、第二次審査員として審査の予定でしたが、これを辞退し以降の選考に係わらないことになりました。急遽、理事の中から豊島と近い分野の石島が審査員になりました。また、高田は、選考会議の議長をする予定でしたがこれを辞退しました。議長代理は石島が務めました。生物物理学会という中規模の学会では、こうした事態は避けられませんが、それでも、利益相反に該当する者は選考に関わらないということには注意深く配慮しています。

招待講演者には、岡山年会初日の朝に行われた若手招待講演シンポジウムにて10分間の講演をいただき、その後3分間の質疑応答を行いました。この講演に対して、10人の二次選考審査員が評価を行いました。各審査員は計5点の票をもち、優れた講演者に1または2点を加えることができます。シンポジウム後に選考委員会を開催し、点数をもとに審査員全員の合意を得て5名の若手奨励賞受賞者を決定しました。また、残りの5名の方を若手招待講演賞の受賞者とするのも合意しました。以下に、各賞の受賞者のお名前と研究タイトルを列記します。

Early Research in Biophysics Award—Report on the Fourteenth Award Selection Process—

Shoji TAKADA¹, Yoko TOYOSHIMA² and Akihiko ISHIJIMA³¹Kyoto University²The University of Tokyo³Osaka University

若手奨励賞受賞者

- ・市川宗蔵（マギル大）「クライオ電子顕微鏡を用いた高分解能構造解析による軸糸ダブレット微小管の構築・安定化機構の解明」
- ・坂口美幸（理研）「一分子時間分解 FRET データの三次元解析:生体高分子の構造不均一性をモデルフリーで定量する方法の開発」
- ・佐藤恵太（岡山大）「脊椎動物の光受容体 Opn5L1 は逆行性・自己再生能をもつ新しいタイプのオプシンである」
- ・Arno Germond（理研）「Predicting gene expression of living cells from a label-free spectral imaging technique」
- ・寺川剛（京大）「コンデンシン複合体は分子モーターである」

若手招待講演賞受賞者

- ・大上雅史（東工大）「スーパーコンピューティングによる網羅的タンパク質間相互作用予測法の開発と予測結果データベースの公開」
- ・小林幹（スイス連邦工科大学）「Structure of a prehand-over mammalian ribosomal SRP-SRP receptor targeting complex」
- ・佐藤 佑 介（東工大）「Environment-dependent self-assembly of DNA nanostructures on phase-separated lipid bilayer membranes」
- ・島田敦広（岐阜大）「チトクロム酸化酵素によるプロトンポンプは、酸素結合によって誘起されるタンパク質内構造変化によって厳密に制御されている」
- ・中西温子（京産大）「クライオ電子顕微鏡による好熱菌 *Thermus thermophilus* 由来 V 型 ATP 合成酵素の単粒子解析」

若手奨励賞受賞者は年会二日目の懇親会にて発表され、受賞者には神取会長から賞状が贈られました。さらに、受賞を記念する楯が後日贈られました。若手招待講演賞を受賞されたみなさんにも、年会後に賞状が贈られました。懇親会における受賞者発表は、毎年恒例となり、大いに盛り上がりました。

特筆すべきこととして、応募書類の完全国際化により外国人の応募者が増えたこともあり、14 回の若手奨励賞の中で史上初の外国人受賞者が誕生しました。今後、生物物理学会年会がますます本格的に国際化することを期待します。

受賞者のみなさんには、お祝いを申し上げるとともに、今後の益々のご活躍に期待します。また、本賞に応募いただいた 33 名の若手研究者の皆様に、心からお礼を申し上げます。次の年会でも、より多くの若手研究者のみなさんに、本賞への応募を呼びかけたく思

懇親会にて、受賞者のみなさんと神取会長で記念撮影。左から、寺川さん、Germond さん、神取会長、佐藤さん、坂口さん、市川さん。

います。今回惜しくも選考から外れてしまった方も、是非とも来年度の賞への応募をお願いいたします。

毎年思うことですが、招待講演はどれも素晴らしいものです。科学的に顕著な研究成果であることはもちろん、自分の研究を明快に、堂々と、講演する若手研究者をみて頼もしくなります。よくも 10 分間に、専門外の聴衆にも分かるように内容を凝縮できるものだと感心します。

最後に、一次選考と二次選考の審査員を務めていただいた皆様のお名前も列記しました。審査員の皆様のご尽力にも心から感謝いたします。

一次選考審査員

北原亮（立命館大）・秋山修志（分子研）・片平正人（京大）・林久美子（東北大）・野口巧（名大）・政池知子（東京理科大）・鈴木宏明（中央大）・岡崎圭一（分子研）・豊田正嗣（埼玉大）・大沼清（長岡技術科学大）

二次選考審査員

中川敦史（阪大）・秋山修志（分子研）・片平正人（京大）・岡田康志（理研）・井上圭一（東大）・石島秋彦（阪大）・鈴木宏明（中央大）・池口満徳（横浜市立大）・永井健治（阪大）・坂内博子（理研）

高田彰二（たかだ しょうじ）

京都大学大学院理学研究科
連絡先: 〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町
E-mail: takada@biophys.kyoto-u.ac.jp

豊島陽子（とよしま ようこ）

東京大学大学院総合文化研究科
連絡先: 〒 153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
E-mail: cytoyoyo@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

石島秋彦（いしじま あきひこ）

大阪大学大学院生命機能研究科
連絡先: 〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-3
E-mail: ishijima@fbs.osaka-u.ac.jp